

## 平成26年度自立支援協議会 意見交換会 議事録

平成26年4月15日  
南部身体障害者福祉会館

### 1 養護学校生の地域との関わり

①卒業・就職後、本人が地域で無事に生活していくことが重要。以前は就学するとすべて学校に任せきりの傾向があった。

→現在は、在学中から企業側の実習の受け入れや、様々な日中活動先を利用できるなど、在学中から地域とのかかわりを持てる環境が整いつつある。

②地域支援担当の先生が学校内の先生方の困り感や思いを集約し、協議会にもってこることで養護学校の現状や課題を共有できる。地域との窓口としての役割を是非担って欲しい。

③毎年支援学校の卒業生

受け入れる通所施設が不足。川崎区は入所施設がなく、GHも少ない現状がある。

④養護学校等卒業後、何らかのサービスを利用し、サービスが終了となったとしても、支援が切れないよう、関係事務所間でつながっている必要があるのではないか。

⑤卒業後の支援

相談したいときに気軽に相談できる窓口があることを周知する必要があるのではないか。

⑥支援学校として、生徒を送り出す立場としてももう少し情報が欲しい。

⑦子どもの支援制度が不足

障害児を持つ保護者は、仕事がしたくても、タイムケアの利用開始時間が遅かったり、学校が早く終わってしまうことがあるため、勤務時間を調整できず、結局仕事を休むしかない。している。

### 2 権利擁護について

①日中活動先で発見されるケースについて。他の事業所でも見られる。(体のアザなど) ②親子間によるものが多い傾向。きちんと福祉事務所の担当 CW や基幹相談支援センターに繋がっているか。水面下では親がいつ子に手をかけるか分からない状況の家庭も沢山ある。未然に虐待を防ぐために何が出来るかも課題のひとつ。虐待のケースについて共有をしたい。

### 3 利用者主体について

①精神障害の方は、医学的な病状なのか、本人の障害特性なのかの線引きが難しい。  
Ex. パーソナリティ障害の方…本人の希望をすべて飲もうとすると、支援者が振り回されることもある。

→どこまで利用者の意見を聞くか？

②支援の一環として入院を勧めたくても、精神障害の方は入院を嫌がる方が多い。普段の生活をリセットするため、ひとつの休息としての入院もある。

### ③視覚障害者について

・高齢になり緑内障や白内障など、目の疾病を抱えた方が問題になっている（中途視覚障害者）。

事例1：視覚障害の方が、誰にも気づかれず、自宅で亡くなっているところを発見された。

視覚障害・聴覚障害の方は、できる部分とできない部分で差がある。例えば、視覚障害の方は住み慣れた家の中では障害物があっても感覚的に覚えていて避けられるが、一歩外に出ると生活のしづらさが見える。

→家族がいる・いないで本人の支援のなされ方が全然違う。視覚障害者情報文化センターでは、視覚障害者訓練事業を実施しており、コミュニケーション訓練や歩行訓練、日常生活訓練などを行っている。本人にやる気があれば、是非参加して欲しい。社会資源を知らないまま、生活している人たちもいる。

4 個別支援計画書の作成をしており、関係機関と本人との関係について整理したい。他事業所の状況を知りたい。

5 包括との意見交換会を今年も行いたい。

①利用者の高齢化が進んでいる。

②面倒をみる親が高齢となり、いよいよ面倒をみることができなくなったときに、相談が入るため、他にキーパーソンがいない世帯も多く、対応に困っている。

6 資源の不足

①その方の支援のメインでない、周辺サービスの不足を感じる。

②児童の場合、放課後支援のサービスを受けている。18歳になると、事業所へ通い帰宅時間が早まり、色々なサービスを繋げて生活している方もいる。

③児童では、最近では株式会社の参入もあるが、放課後デイなどの資源が不足している。

④成人でいうと、ナイトケアが不足している。

⑤休日の夜に、家の電気が漏電しているとの相談があり、そのときは、たまたまヘルパーが対応してくれたが、地域にちょっとした手伝いをしてくれる支援があれば、よいのと思った。

⑥視覚障害者の方の生活訓練事業終了後、訓練を受けた方から、ダウンロードの仕方など、パソコンに関する問い合わせが多い。

7 事例検討

①触法ケースの支援について。地域で生活を開始しているが、現在外出支援をしている。はたしてその支援が本人の為になっているのか疑問を感じる。その他対応について悩みがある。

②就労移行支援事業所内で、触法行為をした方の対応で困っている。

能力があり、仕事をしたい気持ちがあっても、就職に結びつかない。集団にとけ込むことができないことから、実習を行う前に、体制を整える必要がある。生活面が不安定。→触法行為をした方が、地域に戻ったときの体制がかけているため、集団に入る前に、集団適応ができるようなプログラムを行う場所を設置するなど、ワークショップ置くことが必要なのではないか。また、関係事業所間で、対象者の個人情報などをどこまで伝えていいのか検討が必要。

8 災害時のことについては、啓蒙していくことも必要と感じる。

災害時の対応についてやりたい。

9 当事者参加について考えたい

発達障害のある19歳の方の相談を受けたが、同年代の方が集まる場所がなく困っている

10 4月から、障害児をもつ保護者が、用事があったとき等に、自宅に来て見守りをしてくれる、子ども家庭支援員の派遣が始まった。ボランティア団体が運営。現在、支援員は14名。療育センターが把握している障害児は1,300人くらいいることや、それぞれの障害状況を配慮する必要がある中で、今後成り立つのか。

#### ※その他の意見

##### ○計画相談について

27年3月末までにサービス利用者に計画相談支援をつけることになっているが、利用者のなかであまり進んでいない。計画相談で作成された計画書を元に個別支援計画を立てることになっているので、早めに進めてもらいたい。

計画相談の今後や動きを知りたい。在学中の生徒でサービス利用していない方への計画相談の仕方などを知りたい。

→計画相談支援については、相談支援事業所の数が足りないことなどを理由に、進めたくても進められない状況。協議会のなかで訴えても現状は変わらないので、市（本課）に訴えていかなければならないこと。